

私が思う医療と介護

望月中学校 三年 小宮山 りあ

私が、医療と介護について思うことを話したいと思います。

私は、将来、看護師になりたいと思っています。

小さい頃から、看護師という仕事に興味があり、医療系のドラマを良く見ていました。

また、人と話すことが好きで、医者よりも患者さんとの関わりが多い看護師に魅力を感じています。

人との関わりが多い仕事はたくさんありますが、その中でも、人の役に立っている、命を救っていることを実感できる仕事を私はしたいです。

この作文を書くに当たり、佐久市の医療と介護について、調べてみました。

佐久市は、医療が充実していて、「健康長寿のまち」とも知られています。

医療や診療所の数が多く、身近なかかりつけ医が充実していることも特徴です。

また、佐久市には、東信地域唯一の「救命救急センター」が存在し、ドクターヘリやドクターカーがあるため、救急医療の体制も整っています。

このことから、どの年代の人も安心して住める医療体制になっていると思います。

しかし、実際に現場で働いている人はどう感じているのでしょうか。

私は、現役の看護師さんから話を聞いてみました。

まずは、子育て世代の看護師さんの意見として、時短勤務は子どもが保育園の時まで取れるが、時短でも、病棟勤務だと夜勤をしないといけなく、育休明け、一歳すぎからお母さんが夜いない、断乳もしないといけない状態になってしまうことです。

また、時間外や休日の勉強会やセミナー、会議に出られずスキルアップや自己研鑽の機会も限られます。

このことは、少子化や人手不足の原因になると私は考え、子育て世代の人でも安心して働けるような体制を作っていくべきだと思います。

二つ目は、高齢化により、高齢での手術や入院、治療が増えているため、離床センサーをつけ、その都度看護師が部屋に訪問し、対応しないといけないということです。

それに伴い、介助量が多くマンパワー不足になっています。

マンパワー不足を解消するには、病院側にメリットがあるような補助金の制度や国の政策が必要だと私は思いました。

三つ目は、病棟担当の薬剤師はいるが、病棟に常駐していないため、薬の配役や管理を看護師がしていることです。

高齢化で内服薬の多い患者さんが多くなっている中、看護師一人に対しての負担は大きいと思います。

続いて、介護についてです。

私は、福祉体験に行き、実際の介護の現場を見してきました。

体操の際、体を動かすとともに頭も使うことで、運動不足解消や認知症予防の工夫をしていました。

介護士の方々は、大変な素振りを見せず、利用者さんが安心して

過ごせる環境づくりをしています。

佐久市における介護支援は、単にサービスを提供するにとどまらず、家族との連携を重視し、多角的なアプローチで支援を行っています。

これにより、介護を受ける方の生活の質が向上するだけでなく、介護を行う家族自身の生活も支えられる環境となります。

実際に働いている介護士は、人手不足により、勤務時間内に計画書やローテなどの作成ができず、サービス残業や休みの日でも仕事に出ていること、時短勤務制度があるが、入所系は使えても、通所系では受け入れてもらえず、移動するか時短を利用せず復帰になってしまうことがあるようです。

佐久市の介護職の人手不足は、介護サービスの質の低下や利用者の満足度にも影響を及ぼします。

また、高齢者人口の増加に伴い、必要なサービスを提供できない可能性が高まり、家族の負担が増すことも懸念されます。

私は、介護職の人手不足は、給与の安さが関係していると考えました。少子高齢化による需要の急増と、低い給与水準や労働環境による離職率が高い傾向にあるため、佐久地域全体での支援策が求められ、介護職を魅力的にする取り組みが急務です。

最後に、まとめとして、医療と介護は少子高齢化に必要不可欠であり、そのために、今足りてない人材を確保することが大切です。

また、新社会人や子育て世代の人が働きやすい環境、給与の見直し、どんな人でも望めばスキルアップができる配慮のある職場づくりが必要です。

私が将来、看護師となって働くことができるようになったとき、この状況が改善され、働きやすい環境になっていることを切に願います。